

宿泊防災訓練が 行われました



7月20日(金)
～21日(土)

今年度から、全ての都立高校で一泊二日の宿泊防災訓練が行われることになり、両国高校では、一年生が一学期の終業式終了後から翌日にかけて訓練に参加しました。救命講習・アルファ米の夕食・図上防災訓練などの密度の濃い体験を通して、災害時の「自助」と「共助」について学びあいました。

～当日の様子～

★普通救命講習★

14:30～体育館で学年集会。

「防災体験活動」の意義、注意事項の説明、大井校長先生のお話の後、本所消防署・東京防災救急協会の皆さんによる普通救命講習が始まりました。

まず初めに配られた冊子をもとに説明を聞き、各クラス男女2班ずつに分かれて心肺蘇生法を実際にやってみました。



最初は一人ずつ練習し、次に2人一組になり AED（自動体外式除細動器）の使用法も教わりました。パットのつけ方を聞いている子どもたちの表情は真剣そのものでした。





最後に、のどに物が詰まった時の救急法を教えてくださいました。2時間、熱心に取り組みました。講師の方からは「これからは街で倒れている人を見かけたら、今日習ったことを生かして自信を持って救命処置を行ってほしい」と励ましのお言葉をいただきました。なお、受講者は「救命技能認定証」を取得しました。

★アルファ米の夕食★

17:20~いよいよ待ちに待った夕食タイム。今日の献立は山菜おこわ。段ボールにセットしたビニール袋にアルファ米を入れ、その上から熱湯を注ぎ、むらします。



待つこと20分、
おいしい山菜おこわの出来上がり！



ぎこちない手つきで一生懸命よそっている姿は微笑ましいものでした。でも、全員にわかるのがなかなか難しいようで、あるクラスでは担任の先生の分が無くなってしまったとか・・・



全員の分が用意できたところで
「いただきま〜す！」

これが、一人分の食事です。「味はまあまあ」とのことでしたが、男の子にはちょっと少なかったようでした。でも災害時には仕方ありませんね。



★図上防災訓練～DIG成果発表会★

19:00～視聴覚室にて、DIG成果発表会が行われました。奉仕の時間や放課後の時間を使って各班で取り組んできた成果を、各クラス2班ずつ計10班が、工夫を凝らして発表しました。

DIG(ディグ)は、災害(Disaster)のD、想像力(Imagination)のI、ゲーム(Game)のGの頭文字で、簡単な災害図上訓練を意味します。



各班のテーマをご紹介します。

- E組1班 地震と火災—もし両国高校内で火災が起きたら・・・
- A組6班 悪夢の文化祭
- E組4班 地震発生時校内で生き残る術
- A組2班 両国高校で何日生活できるか？
- C組3班 何人泊まれるのだろうか???
- B組1班 災害時の衣・食・住
- B組6班 安全な場所
- C組2班 駅周辺で大地震が起きたら・・・
- D組4班 火災と避難経路
- D組 DIG





どの班も、実際に見て聞いて調べて、具体的な数字をもとに分析し、自分たちの考えを発表していました。「避難場所に比べてAEDが少ないから、もっと増やすべきだ」「学校近辺の道に慣れている自分たちが、避難場所まで誘導していく立場になろう」などの建設的な意見も出されていました。

発表会には、アドバイザーとして、江東橋1丁目町会や本所消防署の方々に出席していただきました。また高校1年生の理事を中心とした保護者の皆さんも参加し、熱心に耳を傾けていました。

消防署の方からは、発表の着眼点と発想のユニークさに、お褒めの言葉をいただくとともに、「火災の場合は、まず全校に知らせ、屋内消火栓設備も活用してほしい。指揮系統はトップからの指示だけではなくトップへの報告も必要。大災害の時、消防車は足りなくなる。地域の消防団と協力し、自分の身は自分で守ることが大切である。」とアドバイスがありました。また、江東橋1丁目町会の方からは、「1丁目町会の住民1240人にとって両国高校は一時避難所となる。町会としても食料や物資の備蓄をしているし訓練もしている。皆さんも今日だけでなく、何回も訓練して身につけて、とっさの判断で自分の身を守れるようになってほしい。」とお話がありました。



最後に大井校長先生が、今日1日のまとめとして「君たちはこのような訓練を受けた1期生である。今後何か災害が起きたら中心になって活動してほしい」と話され、長い1日が終わりました。

この後、男子は自分の教室、女子は中学1年生の教室をお借りして、毛布にくるまって休みました。帰宅した生徒もいましたが、172名が宿泊し、無事に翌朝解散しました。

経験を通し、いざという時に自分の身を守り、助け合うことの大切さを子どもたちはきっと学んでくれたと思います。生徒と共にアルファ米を食べ、泊まってくださった先生方、本当にお疲れ様でした。